



アッケシソウ通信

第5号

平成27年10月

アッケシソウの開花

「アツケシソウ通信」第五号 によせて

浅口市長 栗山康彦

寄島町アツケシソウを守る会が、発足から十一年という永きにわたり、浅口市の天然記念物であるアツケシソウの保護活動にご尽力いただいていることに心より感謝申し上げます。

寄島町のアツケシソウは、絶滅危惧種Ⅱ類に指定され、全国的に自生地も少ないため、どのように害虫から守るかなど、その保護には非常にご苦労されたことと思います。しかし、熱心な会員の方々のご尽力もあり、アツケシソウ祭りには、県内外からも一万人を超える見学者の方々が集まるほどに広く知られるようになりました。

皆様方には、貴重なアツケシソウの生育環境を守るため、定期的な草刈りをしていただいたり、浅口市のアツケシソウを広く市内外の方に知ってもらうため、アツケシソウ自生地に春に綺麗な花を咲かせるハマナスとハマユウを植え、フラワーロードを作ったりと、実に献身的に活動していただいております。

こうした貴会を中心とした熱心な保護活動が、地域の皆様との交流を深め、秋には見事に赤く色づいたアツケシソウを見るために、多くの観光客をお迎えすることができており、浅口市の秋の観光地のひとつになっており、嬉しく思います。

終わりに、アツケシソウを守る会の今後ますますのご発展と会員皆様のご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

夢膨らむアツケシソウランド の将来構想

寄島アツケシソウを守る会
会長 田雅利

アツケシソウ自生地は、今年で発見以来十二年目を迎えました。この間、私たちを守る会は会員の献身的ともいえる努力によって、国の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少植物アツケシソウを保護している希少植物アツケシソウを保護し、年ごとに自生地の範囲を拡大してまいりました。時には異常気象によって発生した毒性ラン藻類による大量枯死現象や日本に初めて出現したアツケシソウキバガの幼虫によって、アツケシソウの茎の内部を食い荒らされ、全滅寸前まで枯死してしまおうという大被害に見舞われたこともありましたが、その都度会員一同の努力によって見事に克服してまいりました。もちろん苦しいことばかりではなく、苦労の末現れる秋の見事な紅葉景観や紅葉期に訪れる一万人を超える見学者の感動の声や激励など、溢れる喜びに浸ることも多い歳月でした。

私たちは、この自生地をアツケシソウランドと名付けておりますがアツケシソウランドと言いながら見学者が訪れるのは秋の一時期だけに限られています。これは寂しい、できれば春夏秋冬年間を通して来園者が訪れる自然海浜公園となるよう、付加価値をつけることはできないだろうかという声が年々高まってきました。

ついに今年度はじめ、アツケシソウランドの将来構想検討委員会を発足し、九月に

利

その答申が提出されたのであります。
①自生地C地区へ「見学者用木道」を設置する。②見学者用の「園内掲示板」を設置する。③園内の植物に名札を付ける。④園内の適地に海浜植物や必要な樹木を植栽しその下へベンチを設置する。⑤野鳥の観察小屋を作る。⑥園内に水道、電気、トイレ等のインフラを整備する。⑦アツケシソウ自生地を岡山県指定文化財（天然記念物）に昇格申請をする。⑧アツケシソウランドを浅口市へ管理委託するよう要請する。（なお、浅口市へ移管した後も「守る会」は、従来どおりボランティアとして管理運営の全面的な協力者として活動を続ける）という壮大な夢とスケールを持つものがあります。

これが実現したら、と夢は無限に広が



ハマナスの果実



紅葉なかばのアツケシソウ

ります。女子高校生が三々五々とベンチに腰掛けて、紅葉の広がるアツケシソウを見ながら喜々として談笑している：前にはアツケシソウの見事な景観、隣のベンチには友白髪の老夫婦が、また子供たちは、ベンチに腰掛けてしきりにクレヨンを走らせている。ベンチはありがたいな！：座るところが欲しいな！これが多くの見学者を迎える会員の夢であります。また別の自生地では、真っ赤に広がるアツケシソウの絨毯の中に伸びる見学者用の木道の上を、カメラをもってスマホをもって、しきりにシャッターを切りながら溢れるほどの人々が喜々として歩いている。この情景を夢に描いて、この切なる願いが一日も早く実現することを願うものであります。

浅口市寄島干拓地のアッケシソウの保護

岡山理科大学 星 野 卓 一

浅口市寄島干拓地に生育するアッケシソウは「アッケシソウを守る会」の方々の熱心な活動により大切に保護されてきました。二年前の平成二十五年にはヨリシマアッケシソウキバガによりA地区の集団に大きな被害が出ました。

しかし、翌年にかけて復活のための播種や土壌の整備により見事に再生しました。昨年の十周年記念事業は作田会長のご挨拶にもありましたように、無事挙行でき私も感無量でした。守る会の皆様に感謝いたします。

アッケシソウは元々北方系の植物で日本ではオホーツク海沿岸の塩湿地に多くが分布しています。瀬戸内沿岸の塩田跡地のアッケシソウは、かなり南の地域に生育していると言えます。瀬戸内地方は北海道と比べると気温が高く生育環境もかなり異なります。従って、瀬戸内に分布するアッケシソウはわずかの環境の変化で絶滅する危険が高いと考えられます。

四国地方の徳島県、香川県、愛媛県の瀬戸内沿岸には多くのアッケシソウが生育していた記録が残っています。大正二年に

牧野富太郎により、瀬戸内沿岸でアッケシソウが初めて発見されたのが、愛媛県新居浜市多喜浜であり四国の各地に生育していたものと思われます。しかし、四国地方には、坂出市と新居浜市でのみ自然状態で生育していることが報告されてきました。しかし、ここ数年の調査で自然状態で生育している個体がほとんど無いことがわかってきました。従って、

浅口市のアッケシソウ群落は瀬戸内地域において唯一自然状態で保護されている集団と考えられます。瀬戸内市の錦海塩田跡地に見られるアッケシソウは野生集団ですが、四国から種子を運んで播種したものです。これらの点からも、浅口市のアッケシソウ群落は大変貴重です。国内最大規模のアッケシソウ群落が見られる能取湖畔では、環境改良工事が裏目に出たため群落に大きな被害が出ま

した。アッケシソウの色つきや生育状況が悪くなり、これを改善するために堤防や土砂の客土が行われました。しかし、乾燥化が進み、逆に個体数が大幅に減少しました。能取湖の被害から、アッケシソウは海水の供給や土壌などの生育条件が重要であることが明らかになりました。浅口市寄島干拓地のアッケシソウ群落の維持には①適度の海水の供給、②定期的な草刈り、③雨水や海水の淀みの防止



2013年8月6日 キバガによる食害



2014年9月14日 食害からの回復

④種子の流出の防止、⑤虫害への対応、などが大切であると思われます。これらの中で、定期的な草刈りは瀬戸内地域のアッケシソウ保護には特に重要です。瀬戸内地域のアッケシソウは、塩田跡地に主に分布していることから塩濃度の高い人工的な環境でのみ生き延びてきました。塩田跡地にヨシやシオクグなどの塩湿地に生える植物が繁茂すると、アッケシソウは数年で絶滅します。寄島干拓地においては、守る会の方を中心とした草刈りなどの保護活動が最も重要であると思われる。日本各地で貴重な植物の保護活動が報告されていますが、そのなかでも寄島のアッケシソウ保護活動は注目すべき成果を上げていると思います。

「守る会」27年度研修旅行
高知県立牧野植物園を訪ねて

大室 信子

三月十日、アツケシソウを守る会の研修旅行で高知県立牧野植物園を訪ねた。

三月というのに朝からどんよりとした曇り空に雪が舞い、瀬戸大橋を渡る際には、車の揺れが気になるほどの風。南に行くほど前方が見えにくいほどの雪であったが、幸いにも植物園に着く頃には雪もやみ、さわやかな天候となった。

今回は他の行事が重なり、参加者は十九名と少数であった。

牧野植物園は、高知が生んだ「日本植物分類学の父」牧野富太郎博士の業績を顕彰するために開園。起伏を生かした約六ヘクタールの園地に三千種類の植物が四季を彩り、自然の中で植物に出会えるということだが、早春三月、名札はあったが草花は枯れ果て残念だった。でも、チューリップ、水仙、ひかん桜が彩りをそえてくれた。また、リニユーアルした温室は、熱帯さながらの室内で、国内外から集めた貴重な植物や、色鮮やかなランなどが目を楽ませてくれた。

帰りの車内では、アツケシソウを海浜公園として整備するためにはどのような植物を植えるか、名札をどう表記するかなどのアンケートがあり、各々が記入した。今日の研修を有意義なものにしたと思いつつ帰路についた。



牧野植物園にて

27年度

「守る会」28年度研修旅行

奈良万葉植物園を訪ねて

三宅 祝子

緑輝く六月七日会員二十七名の期待を乗せ、バスは一路奈良へ。打ち解けておしゃべりを楽しむうち、渋滞もなく現地に着きました。まずは美味しい食事をいただき足取り軽く(?)植物園へと向かいました。

ここ万葉植物園は、昭和天皇の御下賜金をいただき昭和七年に造られた我が国最古の植物園であり、約三百種が植栽されています。園の中央には万葉時代の庭園を思わせる池があり、臥龍のいちはしは歴史を感じさせてくれるのに十分でした。二百本の藤も有名ですが、開花を

過ぎており次回に期待を繋ぎました。園は出来るだけ手を加えず自然のままを生かすことに配慮されており、紫草や菖蒲などから万葉人の声が聞こえるようでした。植物には現代名、万葉名、万葉歌が表示され、表示の参考にもなりました。木漏れ日の下、ゆったりとした時の流れの中で、心癒される一日であったこと、植物への興味関心が深まり、会員相互の親睦が深まるこの企画をして下さったことに、とても感謝しました。

現在、「守る会」会員は百余名。会員の熱心なご支援ご協力によって、アツケシソウは大切に保護育成されています。さらには、おかやま山陽高校空手部とサッカー部の皆さんの澁刺たる若い力。NPO法人倉敷スポーツ倶楽部の小学生と保護者の大勢の皆様。加えて浅口清掃センター社員の皆さんの力強く頼もしいご支援に、守る会一同元気を頂いています。守る会の会員も高齢化し、若い皆様のご入会を期待しています。

①年間会費は五百円で会の運営費に充当します。

②年三回(四月・六月・九月)の草刈り作業可能な会員大歓迎です。

③守る会の研修親睦旅行を年一回行います。今年は奈良の「万葉植物園」を訪ねました。

④アツケシソウ祭は十月に行います。

編集後記

「アツケシソウ通信」第五号をお届け致します。執筆ご依頼の皆様には、日々ご多忙の中を、早速の玉稿を賜り、誌上より厚く御礼申し上げます。

只今「守る会」では、市当局のご支援のもとに、アツケシソウの将来構想を掲げ、より豊かなランドの実現に向けて、その取り組みを開始しました。



万葉植物園にて